

平成 27 年 4 月 24 日

各 都道府県 民生主管部（局）長 様
政令指定都市

公益財団法人 社会福祉振興・試験センター

理事長 多久島 耕 治



平成 27 年度第 2 回民間社会福祉施設（障害者等施設）で主に身体障害者等の
処遇に直接従事している生活支援員等合宿研修受講者の推薦について（依頼）

標記の合宿研修は、民間社会福祉施設職員の資質の向上を図ることを目的に、公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団の助成を受け、厚生労働省の後援により、昭和 48 年から毎年実施しているものであります。

平成 27 年度におきましても、別添「平成 27 年度第 2 回民間社会福祉施設職員合宿研修会実施要綱」のとおり実施することといたしましたので、ご多用の折誠に恐縮に存じますが、管下民間社会福祉施設の職員（中核市も含む）について、別添要綱による推薦書により、平成 27 年 6 月 12 日（金）までに（必着）受講者 2 名を推薦いただきますようお願い申し上げます。

なお、推薦にあたっては本研修の趣旨に照らし、過去の状況も勘案のうえ、特定の施設に偏ることなく、出来るだけ多くの施設から推薦いただきますようお願い申し上げます。

また、書類の提出が上記期限に間に合わない場合、お手数ではございますが、電話・FAX・メール等で結構ですので、同期日までにご一報いただきたくよろしくお願い申し上げます。

おって、ご推薦いただいた中から受講者を決定し、その旨貴職あてご通知申し上げます。

何卒よろしくお願い申し上げます。

担 当	福祉第二部 井領（いりょう）
電 話	03-3486-7511
F A X	03-3486-7514
住 所	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-5-6
E-mail	fukushidai2@sssc.or.jp
ホームページ	http://www.sssc.or.jp

平成 27 年 4 月 24 日

研修ご担当者 様

平成 27 年度第 2 回民間社会福祉施設職員合宿研修会の
推薦依頼について（補足）

お世話になります。本文書が、担当係ではない係に届いてしまった場合は、恐れ入りますがご担当者様にお渡しください。

当研修は、障害者等施設で主に身体障害者等あるいは知的障害者等の処遇に従事している生活支援員等を対象に、隔年で実施しており、今年度は身体障害者等の処遇に従事している生活支援員等を対象としております。

2 名のご推薦を依頼しておりますが、推薦者の合計が定員を超える場合、選考となります。そのため、複数名ご推薦いただける場合、恐れ入りますが、優先順位を付けたうえでご提出いただけると幸いです。もし優先順位がない場合、当センターにて実施要綱（10 受講者の選考）に基づき、優先順位を付与させていただき選考させていただきますので、「優先順位なし」とご記載ください。

なお、今年度より受講者の年齢制限を撤廃いたしました。

【ご提出いただくもの】

- 1 推薦書（様式 1）
- 2 グループ研究討議の希望テーマ（様式 2）
- 3 「個別援助事例」（「事例研究」様式 1）または「集団援助事例」（「事例研究」様式 2）

提出期限 平成 27 年 6 月 12 日（金）必着

書類の提出が上記期限に間に合わない場合、お手数ではありますが、電話・FAX・メール等で、同期日までにご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

特にご連絡がない場合は、今回の研修については「推薦者なし」ということで処理させていただき、こちらより特に連絡差し上げませんので、ご了承ください。

【受講者の決定について】

推薦締切後 2 週間以内にご通知申し上げます。

【推薦書等様式の電子データ（Word）について】

推薦期間中（6 月 12 日まで）、当センターHP「国内合宿研修」ページに推薦書等様式（Word）を掲載致します。電子データが必要な場合、当センターHPよりダウンロードしてください。

本研修の推薦依頼についてご不明な点等ありましたら、下記担当者までご連絡いただきますようお願いいたします。

公益財団法人 社会福祉振興・試験センター

担 当 福祉第二部 井領（いりょう）

電 話 03-3486-7511

F A X 03-3486-7514

住 所 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-5-6

E-mail fukushidai2@sssc.or.jp

ホームページ <http://www.sssc.or.jp>

平成 27 年度第 2 回民間社会福祉施設職員合宿研修会実施要綱

1 目 的

民間の障害者等施設において、主に身体障害者等の処遇に従事している中堅職員に対し、必要な専門知識、技術を修得させるとともに、合宿研修をととして参加者相互の交流を図り、コミュニケーションを深めることにより、その資質の向上を図ることを目的とする。

2 主 催 公益財団法人 社会福祉振興・試験センター
〔公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業〕

3 後 援 厚生労働省（予定）

4 実施期間 平成 27 年 9 月 7 日（月）～9 月 11 日（金）までの 5 日間

5 研修会場 ホテルルポール麹町
東京都千代田区平河町 2-4-3 電話 03-3265-5361（代）
（交通）地下鉄有楽町線「麹町駅」下車 徒歩 3 分
（JR 山手線有楽町駅乗り換え）

6 宿泊場所 上記に同じ

7 受講者の資格

民間（公設民営を含む）の障害者等施設において、主に身体障害者等の処遇に直接従事する生活支援員・介護職員等で、次の各号のいずれにも該当する者とする。

- （1）社会福祉施設における業務経験が通算して 3 年以上で、かつ、当研修受講後も引き続きその施設に勤務する意思のある者
- （2）民間社会福祉施設職員合宿研修の未受講者
- （3）研修期間中、宿泊できる者（2 人部屋または 3 人部屋）

8 受講定員 50 人

9 受講希望者の推薦

受講希望者については、「平成 27 年度第 2 回民間社会福祉施設職員合宿研修会受講者推薦書」（別紙様式 1）を提出すること。

10 受講者の選考

研修の普及効果等を考慮のうえ、次の選考基準により受講者を選考する。

【選考基準】

- (1) 都道府県・政令指定都市の推薦者のうち各1名
ただし、推薦のあった都道府県・政令指定都市の優先順位1位の推薦者の合計が定員を超える場合は、基準の(3)以降により選考する。
- (2) 都道府県・政令指定都市の推薦者のうち優先順位2位の者を、基準の(3)以降により選考する。(優先順位3位以下の者も同様に選考する)
- (3) 本研修に参加したことのない社会福祉施設の者
- (4) 利用者人数の多い社会福祉施設の者
- (5) 社会福祉施設における業務経験の長い者

11 研修内容

研修科目及び時間（予定）

科 目	時間	科 目	時間
身体障害児・者福祉行政の動向	1.5	身体障害者の心理・行動の特性	2.0
特別講義	1.5	リスクマネジメント	2.0
身体障害者の医学的理解と介護	3.0	介護技術と介護演習	3.0
グループ研究討議	3.5	事例研究	4.0
事例研究バズセッション	3.0	個別支援計画と演習	4.5

12 旅費及び宿泊費

(1) 旅 費

旅費は、当センター負担とし、研修会終了後速やかに、指定の口座へ振込とする。
なお、当センターの旅費規程に基づき支給することとする。

(2) 宿泊費

9月7日（月）～9月10日（木）までの宿泊分（4泊）については、当センターが手配する。

13 体験事例の提出

- (1) 「事例研究」に資するため、受講希望者は、施設で体験した「入所者処遇において成功した事例又は現在直面している事例」をその経過が明確にわかるよう、次の①《個別援助事例》又は②《集団援助事例》のいずれか一方を、推薦書と同時に提出すること。
 - ① 《個別援助事例》をテーマとする場合は、「事例研究」様式1によること。
 - ② 《集団援助事例》をテーマとする場合は、「事例研究」様式2によること。

- (2) なお、「事例研究」において発表する事例は、受講者として決定された者の体験事例の中から、当センターが担当講師と打合せのうえ 4～5 ケースを選定し、資料としてまとめ、別途、受講者全員に事前に配付する。

1 4 グループ研究討議の希望テーマ及び事例の提出

- (1) 研修期間中、当センターが定めたテーマによりグループ研究討議を実施する。受講希望者は、「グループ研究討議の希望テーマ」(別紙様式 2)により希望するグループ(希望のテーマ)に○印を付し、推薦書と同時に提出すること。

- (2) 受講者として決定された者は、グループ研究討議を有効かつ能率的に行うため、割り当てられたグループ(テーマ)に関し、事例をもととした問題提起を 800 字以内(A4判用紙に下記要領により作成)にまとめ、別途提出すること。

なお、グループ割は、当センターにおいて調整し決定するので、必ず希望したテーマ別グループに割り当てられるとはかぎらない。

A グループ

「・・・した(している)事例」

都道府県

指定都市 施設名 職 種 氏 名

.....
.....

※文体は常体とすること。

(・・・だ。・・・である。)

1 5 受講者の携行品

- (1) 印鑑
- (2) ノート、筆記用具
- (3) 健康保険証
- (4) 日常使用の家庭常備薬
- (5) スポーツウェア、スニーカーの類
- (6) 施設パンフレット・名刺等(グループ研究討議等で使用)

1 6 レポートの提出

- (1) 受講者は、研修終了後、当センターが指定する期日までにレポートを提出すること。
- (2) レポートのテーマは、研修期間中に提示するものであること。
- (3) 提出されたレポートは、報告書としてまとめ、関係機関に配付するものであること。

平成 27 年度 第 2 回民間社会福祉施設職員合宿研修会受講者推薦書

標記 民間社会福祉施設職員合宿研修会の受講希望者を実施要綱に基づき
次の通り推薦いたします。

ふりがな 受講希望者 氏 名		性別	男 ・ 女	生年 月 日	昭和 平成	年 月 日	年齢	歳
ふりがな 所属法人名		利用区分		知的・身体・精神		入所・通所		
		施設・事業種類						
		ふりがな 所属施設名						
ふりがな 法人代表者 氏 名		ふりがな 施設長名					定員	
施設の所在地	〒				施設の 電話番号	市外局番 — —		
職種又は役職名 (例)生活支援員 介護職員			社会福祉施設 通算経験年数(3年以上のもの)				年 か月	
			うち障害者等施設で主に身体障害者等の処遇に従事した経験年数 (複数施設経験の場合は合算)				年 か月	
学 歴 等 最終学歴 福祉関係資格 他施設種類・ 職種の経歴								
資格の有無	介護福祉士		社会福祉士		精神保健福祉士			
	有 ・ 無		有 ・ 無		有 ・ 無			
<p>平成 27 年 月 日</p> <p style="text-align: center;">都・道 府・県 市 部(局)長</p> <p style="text-align: center;">主 管 課 担当者氏名</p> <p style="text-align: center;">電 話 番 号 (内線)</p> <p>公益財団法人 社会福祉振興・試験センター</p> <p style="text-align: center;">理事長 多久島 耕 治 様</p>								

(注意)ここに記載の個人情報は、公益財団法人社会福祉振興・試験センターが行う事業に使用するものであり、第三者に提供することはありません。

※ 年齢、経験年数は、研修初日現在(平成 27 年 9 月 7 日)を基準に記載してください。

平成27年度 第2回民間社会福祉施設職員合宿研修会

グループ研究討議の希望テーマ

都道府県 指定都市		施設名	
受講希望者 氏 名		職 種 役職名	
研究討議の大テーマ（基調）			
「障害者等施設における <u>身体障害者等</u> の自立とは何か。個別ケアはいかにあるべきか」 をテーマ全体の基調として、以下のサブ・テーマによって研究討議する。			
希望するテーマを <u>2つ</u> 選び、その番号を○で囲むこと。			
<p>1 入所者の生活（QOL）の向上を図るための取り組みについて</p> <p>2 施設から地域への移行（自立）の進め方について</p> <p>3 家族、地域、関係機関との連携の在り方について</p> <p>4 個別支援計画作成・日々の記録・業務に対する反省と評価の在り方について</p>			
<p>（備考）</p> <p>自由討議は、単に施設における取り組みについての紹介ではなく、受講者として決定され別途示すグルーピングによるグループテーマに関し、実例を中心とする問題提起によってグループメンバー全員で研究討議を行うものとする。</p> <p>なお、グループ割は、当センターにおいて調整し決定するので、必ず希望したテーマ別グループに割り当てられるとはかぎらない。</p>			

「事例研究」様式1 個別援助事例について

- 1) 次の項目について、A4版の用紙に横書き、字数40字×30行×3～4枚でまとめること。
- 2) 各項目の字数（特に表中の項目）は、全体のバランスを考えて適宜伸縮して記入すること。

I 個別援助事例

(都道府県・市名) (施設名) (職種名) (氏名)

「題名」(事例の内容がわかるように工夫すること)

1 プロフィール ※ 個人が特定できないように配慮すること

(1) 氏名・性別・年齢	(例) Aさん・男性・67歳
(2) 入所年月	平成〇年〇月入所(在所期間〇年〇か月)
(3) 入所理由	
(4) 現在の心身の状況	障害支援区分、パーソナリティの傾向を含む
(5) 既往病歴	
(6) 生活歴の概要	(最終学歴・職歴・家族歴等を含む)
(7) 家族構成図	(家系図の様式。入所前の家族は点線で囲む) 女○、男□、死亡●■
(8) 施設内友人との交流関係	
(9) 趣味・クラブ活動等の参加状況	
(10) その他	(その他、事例を理解するために必要な事項等を記載すること)

2 事例の概要と、この事例を取り上げた理由

3 援助経過の要約 (この部分がメインとなるので、具体的に記述すること)

- (1) 初期の状況(問題の発生、アセスメント、支援計画、実施結果等)
- (2) 中期の状況(その後の変化、アセスメント、支援計画、実施結果等)
- (3) 現在の状況・今後の見通し

4 評価と反省

5 「個別支援計画」及び「週間計画表」 (別紙)

※ 個人が特定できないように配慮すること

取り上げた利用者の「個別支援計画」及び「週間計画表」を必ず添付してください。
その際に氏名の欄をイニシャル化する等、個人特定ができないようにしてください。
「事例研究」及び他の講義で使用させていただく場合があります。

6 施設の概要 (別紙)

(1) 入所者定員		(6) ケース会議関係	
(2) 入所者現員		・参加職種	
(3) 職員数		・参加人員	
(4) 居室の状況		・開催回数	
(5) 日課の特徴		(7) その他施設の特徴	

「事例研究」様式2 集団援助事例について

(グループ活動、地域福祉支援活動、施設処遇体制改善活動等)

- 1) 必ずしもグループワークの事例でなくても、利用者の生活援助、地域福祉支援のために行った委員会活動等の事例でもよいこと。
- 2) 次の項目について、A4版の用紙に横書き、字数40字×30行×3～4枚でまとめること。
- 3) 各項目の字数(特に表中の項目)は全体のバランスを考えて適宜伸縮して記入すること。

II 集団援助事例

(都道府県・市名) (施設名) (職種名) (氏名)

「題名」(事例の内容がわかるように工夫すること)

1 グループ活動等の名称

2 この活動を取り上げた理由

3 活動経過の概要 (この部分がメインとなるので、具体的に記述すること)

- (1) 初期の状況(ニーズの調査、動機づけ、活動の計画等)
- (2) 中期の状況(メンバーの状態、活動の経過、その他)
- (3) 後期の状況(結果と終結)

4 評価と今後の課題

5 施設の概要 (別紙)

(1) 入所者定員		(6) ケース会議関係	
(2) 入所者現員		・参加職種	
(3) 職員数		・参加人員	
(4) 居室の状況		・開催回数	
(5) 日課の特徴		(7) その他施設の特徴	

*その他、レポート作成上の留意点

- (1) 文体は、常体にすること。(「・・・だ・・・である。」)
- (2) 「見出し」番号及び行空けは、各項ごとに次の通りにすること。
 - ・ 1 (算用数字) —————大見出し
(注)書き始めの場合を除き、上2行及び、下1行を空欄にすること。
 - ・ (1) —————中見出し
(注)上1行を空欄にすること。
 - ・ 1) —————小見出し
(注)上1行を空欄にすること。
 - ・ 以下、①、①-1、の順序にすること(これらの場合も、上1行を空欄にすること)。